

グラフ

みんなの県政

郷土を空から



県東部に重畳と連なる立山の峰々 麓は立山町



■表紙

立山連峰の中で最も男性的なけわしい剣岳が黒部川にそのすそを切り立てているところにこのまぼろしの滝を見出した。一日中太陽の光が届かないこの滝は、実に神秘という言葉がピッタリあてはまる、実にすばらしいものである。



日本一の長さを誇る称名滝と 弥陀ヶ原を経て雄山を望む

*ふるさとを見なおそう



自然が装う紅ないの中でそのショウシャな姿が親しまれるソーメン滝と主峰雄山



平氏の落武者が祖といわれる五カ山の人たちが今に残す合掌造りの集落—平村菅沼=国指定文化財=



幾度となく荒れ狂った黒部川がつくった扇状地をその要め 愛本橋からみる



その昔 宿場町ができあがっていった形態がよくわかる福岡町



全国のチンドンマンを集めてのコンクールは今年で20回を数える

県の政治経済文化の中心富山市は 戦後急激に都市形態を整え 数年後にはこの附近を新幹線が突走ることになる



高岡市伏木岩崎鼻から氷見海岸を望む



剣岳あはれ幾千年の氷雪に裂け削げて八ツ峰前剣なす 柳瀬留治(大沢野町出身)が詠んだ剣岳の偉容

いま、私たちは私たちの祖先が築き、残してくれたさまざまの県土をみている。

私たちはこの大いなる大地と、そして美しい遺物や自然を活かしながら、より住みよい、より豊かに繁栄していく県土を築き、若い世代がすくすくと育つ郷土にしなければならない。

愛と繁栄
 住みよい富山県をつくる



楽しいプランがいっぱいの県民公園予定地(2,000ヘクタール)の一部池は野敷野池 富山市から大門町までのサイクリング道路は4月には一部開通する

* 置県100年をめざして

よりよい生活の実現をめざすために、県では昭和48年9月「住みよい富山県をつくる総合計画」をたてた。

すべて県民サイドにたって考えているこの計画は、これからの県政の大きなよりどころである。



県土を花と緑で包む運動はさかん 花と緑の銀行をご利用下さい

* 高度な社会福祉県をめざして

恵まれない人たちのための福祉の充実は急務であるとして、老人医療の公費負担、ホームやセンターの整備拡充、身障者、精薄者などの福祉……。きめ細かい対策を進める富山県は、いま民間の福祉活動とあいまって、日一日と住みやすくなっていく。



老後を安心して過せるホームでは老人たちは 生きがいのある楽しい日々を送っている =流杉老人ホーム=



* 何よりも健康が優先

母と子の健康、死亡率の高い成人病の予防、スモン病などの特定疾患etc……。そして看護婦さんや医療施設の充実から食品衛生の監視にいたるまで、その対策は力強く続けられる。健康な環境づくりにはキメ細かく積極的な施策がとられている。



北陸一の設備を整える県立中央病院



国立富山医科大学の建設予定地＝緑の呉羽山丘陵の富山市杉谷地内＝



本県が日本の経済社会発展のために大きな役割を果たすためには、日本海時代の基地としての確固たる地盤を築き、豊かで住みよい地域社会をつくらなければならない。このような役割と課題は、生活の源泉であり、経済の原動力である健康の保持が何よりも肝要である。昭和50年開学をめざす国立富山医科大学誘致は、こうした背景にたって、本県がかかえている医療上の課題を解決しようとするものであり、百万県民の願望である。

* 豊かな水の利用

生活水準の向上から、水の需要の増大は避けることができない。

本県ではその豊かな水を最大限に利用しようと、白岩川、利賀川、子撫川、角川、境川、朝日小川にダム建設と調査をしている。発電に、上水道に、農業用水に、そしてそれ自体が洪水調節になるよう総合的な見地からの水資源開発が推進されている。

白山が近くに見える利賀川ダム



利賀川ダム

本県の歴史は一面では水との闘いの歴史であった
安政5年に崩壊した立山の爆裂口あとに 明治39年からその洪水禍から人命や大地を守ろうと
建設されてきた常願寺砂防=左端は雄山=

愛と繁栄 富山県に繁栄をもたらす

昭和48年10月16日中田知事らの手によってテープカット



北陸自動車道砺波インターチェンジ



* 交通網整備着々と

北陸新幹線が昭和54年に 本県を中心に東京―大阪間を走る。この新幹線がもつ大きな機能効果を最大限に発揮するためにも必要な基幹交通網〈北陸自動車道〉は、砺波―小杉間に開通し、いよいよハイウェイ時代が北陸にも誕生した。豊かで住みよく繁栄につながる交通網は着々と整備されていく。



富山を東西にのびる国道8号線とバイパス



県土を南北に走る国道41号線

* 農・林・水産業の振興

県内林業の研究指導する林業試験場



進むほ場整備事業＝入善地帯＝



生産性の高い農家経営を広いほ場で研究を重ねる農業試験場

「農は国の基」という。うまい良質の越中米。その生産性を高めるための施策が農業振興地域整備計画を基礎に進められている。

一方、水源となり空気を清め、小鳥やけものたちに住み家を与え、自然の猛威から国土を守る森林を育て、また海の幸の漁業振興や漁港の整備など、第一次産業は郷土の大地にしっかりと力強く伸びている。

* 豊かな生活をめざして

公害のない工業、近代化された商業。そこにはすばらしい技能が生まれ、人間性豊かな生活が約束される。中小企業の体質強化や高付加価値型の工業へ、そして、対岸諸国との貿易促進など、繁栄への道は大きく開かれていく。

アルミや木材のコンビナートを中心とする近代工業が誘致されて 一大臨海工業地帯を形成する 富山新港



中小企業工場団地は県下各地に造成されていく = 魚津工場団地 =



県政バス教室で新港を見学する人たち



愛と繁栄
若い世代を育てる

薬師岳を背に有峰青少年の家（昭和39年7月建設）



日本海を正面に駒ヶ岳を背にする黒部青少年の家（昭和48年8月建設）

青少年をのびのびと育てることは、限りない未来を彼らに託すものにとって責務ともいえよう。

青少年の家は、この責務を果す一端であり、彼らが力強くたくましく、日々の生活が有意義になるための研修の場である。

青少年の家の昼食で談らんする中田知事





置県90周年記念事業として青少年が自然に親しみ 憩い 思索し そして勤労の場「青年の山」は福光町刀利ダム湖畔にできる



祖先をおもい郷土の歴史をさぐる風土記の丘＝立山町＝



* 若いエネルギーは健やかに

私たちは、あすの社会の担い手である若い世代を心身ともに健全に育てるために、家庭といわず学校、社会と、あらゆる生活の場において彼らの向上発展を助け、教育していく努力をしなければならない。

施設の整備と充実、スポーツの振興、社会教育の場と若い世代が育つための施策は次々と推進されていく。



昭和51年冬季国体〈おおよま国体〉の準備を急ぐ極楽坂スキー場

県営の野球場 陸上競技場と富山大学



置県90周年記念事業ジャンボヤングフェスティバルは富山城址や県庁前などで大成功をおさめる

いかがでしたか。空から見た私たちの郷土「富山県」は……。

ほんの一部ではありましたが、先輩が幾多の努力を重ねて築いてくれた県土は、大きく発展しながらも、まだまだ余力を残していることにお気付になったのではないかと思います。

今年は昨年暮以来、異常な動向を見せている日本経済の中で、私は知事二期目の信託を得て、初心を忘れず、県民のみなさんの福祉と生産にこの大なる大地を利して、懸命の努力を重ねていきたいものと、ここに一冊のグラフをお届けいたしました。

昭和49年3月

富山県知事 中田幸吉



世界をこの目で 友情をこの手で



第3回青年の船はシンガポール・マレーシア・タイを訪ねた
＝バンコックのエメラルド寺院でタイの若い僧と行き交う団員＝

No.4

グラフみんなの県政

